

22世紀八幡ルネッサンス運動(略称:八幡ルネ)企画作業チームニュース

ひ る ば

- 発行: 22世紀八幡ルネッサンス運動
企画作業チーム ひろば編集部
- 事務所: 八幡市八幡高畑 10-76
TEL/FAX075-981-6505
090-3710-4842
- 橋本連絡所: 八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488
- 男山連絡所: 八幡市男山指月1-12 080-3780-6140
- 八幡連絡所: 八幡市八幡土井135 竹島文化2F13号
- 振込口座: 京都中央信用金庫八幡支店
普通 5243582
22世紀八幡ルネッサンス運動

目的

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。



「五感を使った遊びの中で環境を考える」のコーナーでは、子どもと自然学会理事の野村治さんの主導で、フタバガキの種飛ばし、熱気球飛ばし、手作りコマ回し、プラトンボ飛ばしなどが行われました。そのなかで、熱帯雨林が減少している現実、空気がふくらむと軽くなるということ、コマが回ったり物が飛行したりする原理などを学びました。

今回はたくさんさんのコーナーやブースを用意して、様々な遊びや体験を企画しました。
午前の部のオープニング行事では、京都八幡高校の吹奏楽部のみなさん、午後の部はドルチェハンドベルリンガーズのみなさんによって今流行の音楽や昔懐かしい曲などが演奏されました。

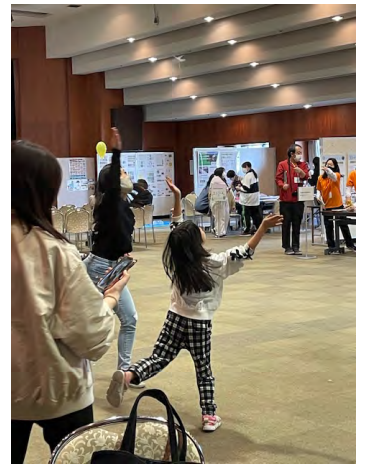
3月31日(日)、八幡市文化センター小ホールを会場に、「第2回遊びながら環境を考える三世代交流イベント」どつする気候変動!」が行われました。

実行委員より

遊びを通して環境を学ぶ



「地球温暖化と気候変動」のブースでは、京都府地球温暖化防止活動センターの協力を得て、輪投げ、射的、手回し発電おもちゃの体験が展開され、家電製品の中で電力を使う製品を知りました。
「八幡の自然と生態系を学ぶ」のブースでは、木津川河川レンジャーの協力を得て、魚釣り体験をしました。また、生態系を壊す外来種の問題を知るきっかけになったでしょう。



城南衛生管理組合のみなさんが多数駆け付け、ガラス器材の色付け体験ができました。できあがった作品はよい記念になると思います。
八幡市環境政策課のみなさんによって、文字札を書いたり、「やわたエコかるた」を体験したりしました。
今回、京都八幡高校南キャンパスのボランティア部のみなさんが顧問の先生をふくめて総勢20名が来場し、それぞれのコーナーやブースに分かれて、子どもたちに教えたりサポートしたりしていただきました。その経験が将来、生徒のみなさん方が環境の問題に関わる際に役立つことを願ってやみませ

◆地球をまもろう!

「私にも言わせてコーナー」に頂いた意見を一部紹介します。

自分の子どもにどんな社会で生きてほしいか考えたい。/今、行動しないと未来はない! /今ある綺麗な日本が続くよう、環境活動に頑張ります。/ポイすていや! /せんそうなんかしないでちきゅうをみんなでももろう! /みんなおなじちきゅうじんだから! /ゴミを分別して再利用できるように心がけていきます。/これから毎年の夏が大変です。いのちの闘いです。二酸化素削減の取り組みは人類に課せられた、とても大きな問題です。/人にやさしく。/子ども達の未来を守るのは大人の責任です。/未来の世代に誇れる行動を! /本当に必要なものだけ買うように。使えるものは長くつかうように。/これからの未来。キミ達にかかっている。愛をもって行動を!! /ポイ捨てする人とボランティアする人と税金が同じなのは不公平! /もったいないを考えよう。/食べ残し、水の出しっぱなし、つけっぱなしは止めよう。/いつもきれいな海がいい。(参加者、200名)



大谷川清掃レポート

2024.3.29

カタバミ

カタバミ(片喰、酢漿草)は、カタバミ科の多年草で、5〜10月に径8ミリほどの黄色い花を咲かせます。光に反応して、花は朝開き、午後には閉じます。薄暗い雨の日には開きません。花は午前中に活動するハチのリズムに合わせて咲き、ハチが活動しない雨の日には閉じて花粉を流失しないようにしています。葉も夜には閉じます。昼の強い光は、光合成の効率や、蒸散で水分を失うこと避けるため葉を閉じます。これらの機能は、光のセンサーで調節しているのです。

実の形はロケットそっくりで、天に向かって聳(そび)え立つようです。実の中には小さな種がたくさん詰め込まれています。タネを飛ばす仕組みは、外来の振動を感知することで実現しています。タネは袋に包まれて大きくなっていきますが、タネが大きくなるにつれて袋の外側の細胞の伸びは止まります。内側の細胞は伸び続けようとします。タネが熟す頃には無理に押し締められた状態になります。そんな時期に外部からの刺激が加わると、内側が伸びてタネをまき散らします。袋の中の液体はタネとともに飛び出し、振動を与えた動物に張り付き運んでもらいます。こうしてカタバミは生活圏を拡大していきます。

カタバミは漢字で「酢漿草」とも書きます。葉や茎を噛むと、酸っぱい味がします。蔞酸(しゅうさん)を含んでいるからです。蔞酸を含む

植物を多量に食べると体内のカルシウムイオンと結合して、結石を引き起こす可能性があります。植物が身を守るための化学兵器といえます。ほうれん草にも蔞酸が含まれています。茹でて煮汁を捨てれば大丈夫です。

カタバミの葉は、雨に濡れると水をはじく撥水効果があります。ミクロレベルの周期的な凹凸によって実現されています。ロータス効果と呼ばれ、工業製品の表面加工技術に応用されています。ヨーグルトの蓋がよい例でしょう。

ちっぽけな花でも多くのハイテク技術が潜んでいます。植物のハイテクに学ぶことは多いのです。

草刈り機3台を稼働し、主に枯れた草を処理しました。そして現れたプラスチックゴミ、空き缶、ビン類を拾うと70リットル袋2袋にもなりました。最近の雨により流れ着いたようです。

◆3月3日、第98回舞台大谷川清掃 4名の参加で70リットル袋17袋回収しました。

◆3月24日、第180回山路大谷川清掃 雨のため中止しました。

【第181回

山路・大谷川の清掃のご案内】

■日時：4月28日(日)

午前9時半〜正午(雨天中止)

■集合：旧あずま屋

(コノミヤ裏八幡源氏垣外)

※会場設営にご協力いただけの方は、集合時刻の30分〜1時間前に現地にお集りください。

※用意して頂く物：厚手の手袋。そ

の他の必要な物は用意します。

【第100回

舞台・大谷川の清掃のご案内】

■日時：5月5日(日)

午前9時〜11時半(雨天中止)

■集合：大谷橋下流の休憩所

(ベンチあり)

※会場設営・用意して頂く物は山路・大谷川と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先：八幡市八幡高畑10-76

Tel 075(981)6505

携帯090・3710・4842

八幡の名所を俳句に詠む

5

土井三郎

松花堂庭園

竹垣に映ゆる椿や松花堂

明治24年(1891)、かつて男山中腹にあった草庵「松花堂」と隣接する泉坊書院が井上忠継氏によって、現在地に移築されました。これが松花堂庭園の始まりです。

昭和38年(1963)に庭園は塚本素山氏(塚本総業)の所有となり、塚本氏は庭園を拡張し、3棟の茶室と美術館を造営しました。その後、昭和52年(1977)、八幡市は市制施行の記念の折、庭園を譲り受けました。

毎年、3月の末に椿展が催され、竹垣に縁どられた庭園内を散策する

と、様々な意匠の花籠に盛られた椿を鑑賞することができます。椿園でも地植えの椿を見ることができます。



正法寺

唐門に花の零るる正法寺

八幡清水井にある正法寺は、幕府の御家人である高田忠国が石清水八幡宮のへい幣れいし礼使としてこの地に居住したことに始まります。忠国は、源頼朝の名代として八幡宮を支えるために派遣されたのです。忠国は、建久2年(1191)に正法寺を開き、次男の円誓を開山とします。のち、高田氏は、清水井に居住した縁で「志水」に改姓しました。

正法寺は、室町時代後期の伝言が任職の時に後奈良天皇の帰依を受け、勅願寺の綸旨と宸筆の「徳迎山正法寺」の額字を賜ります。

伝言在世のときに寺領の集積が進み、天正17年(1589)の差出検地を経て、豊臣秀吉から500石の知行が安堵され、それは徳川家康に引き継がれます。その後、志水宗清の娘、お亀が家康の側室となり、お亀が産んだ義直が尾張徳川家の初代藩主となり、正法寺は尾張家から厚い庇護をつけるのです。

背割堤

背割堤浮世離れの雉の声



京都から流れる桂川と琵琶湖から流れる宇治川、三重を水源とする木津川の三川が合流する地は、治水が最大の課題でした。それぞれ流量がことなり、水の勢いも異なります。明治以降、治水事業が計画的に進められ、宇治川と木津川の背割に堤防が築かれます。背割堤には、当初、松が植えられましたが、害虫で枯れてしまい、ソメイヨシノが植えられ、桜の名所に生まれ変わりました。

花見見物に訪れる観光客は、雉の素っ頓狂な鳴き声に本格的な春の訪れを感じることでしよう。

